

洪水や土砂災害から命を守るために

【問い合わせ】
町総務課広報・防災・情報グループ
☎ 7501

洪水や土砂災害による被害が毎年のように頻発しています。

内閣府では、昨年7月に西日本を中心に広い範囲を襲った、記録的な大雨による人的被害を教訓にして、地方自治体が発令する避難勧告などの基準や、伝達方法の参考となる「避難勧告等に関するガイドライン」を改訂し、災害時に発表する情報に、5段階の「警戒レベル」を追加しました。

町では、洪水や土砂災害が予想される豪雨になった場合、避難を呼びかけるために「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示（緊急）」の3段階の避難情報を発令することになっています。また、今後は内閣府の動きに合わせて、災害の危険度を分かりやすく数字で示す「警戒レベル」も同時に発令する予定であり、準備を進めています。

避難のタイミングを確認し、災害に備えることは、洪水や土砂災害から命を守るためにも重要なことです。適時適切な避難を行うためにも、家族や地域で確認しましょう。

台風にも備えましょう

8月から9月にかけては、1年で最も台風の発生・接近・上陸が多くなる時期となります。北海道への台風の接近数は平年では2個に満たない程度ですが、平成28年は5個の台風が接近し、そのうち3個が上陸するという稀に見る年となりました。これらの台風がもたらした大雨により道内各地で多くの被害が生じたことは記憶に新しいかと思えます。

台風による災害は、主に暴風・大雨・高潮・高波によるものです。気象庁では、台風の位置や強さなどについて、5日先までの予報を発表します。また、災害の起こるおそれがある場合には警報や気象情報を発表し、警戒を呼びかけます。

台風が接近して暴風が吹き始めると、避難行動自体ができなくなるおそれがあります。テレビやラジオ、気象庁のホームページ（気象庁HP）などで常に最新の気象情報をチェックして、早めの備えを心がけてください。

ステップ① 周囲には、どのような危険があるのか確認

- ◆町で作成した「防災ガイドブック」などを見て、河川が氾濫した場合には何メートル浸水するのか、土砂災害が起こりやすい場所ではないかなど、自宅や学校・職場などのよく立ち入る場所に、どのような危険があるのかを確認しましょう。
- ◆町が指定している「指定避難所」や「指定緊急避難場所」を確認し、そこまでの経路や移動手段などを計画しておきましょう。

ステップ② 行政機関から出される防災情報を確認

◆避難情報や防災気象情報には、次のものがあります。

警戒レベル	発令する避難情報	皆さんが取るべき行動	気象庁などが発表する防災気象情報※4
5	災害発生情報（町が発令）※2	既に災害が発生している状況 命を守る最善の行動をとる	氾濫発生情報 大雨特別警報
4	避難勧告 避難指示（緊急）（町が発令）※3	災害が発生するおそれが極めて高い状況 速やかに避難所などに避難する	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	避難準備・高齢者等避難開始（町が発令）	避難に時間を要する方（高齢者、障がいのある方、乳幼児など）とその支援をする方は避難を開始する	氾濫警戒情報 大雨・洪水警報
2	大雨注意報など（気象庁が発令）	「防災ガイドブック」などにより、避難行動を確認する	大雨・洪水注意報
1	警報級の可能性（気象庁が発令）	災害への心構えを高める（気象に関する情報の入手など）	警報級の大雨が降る予報

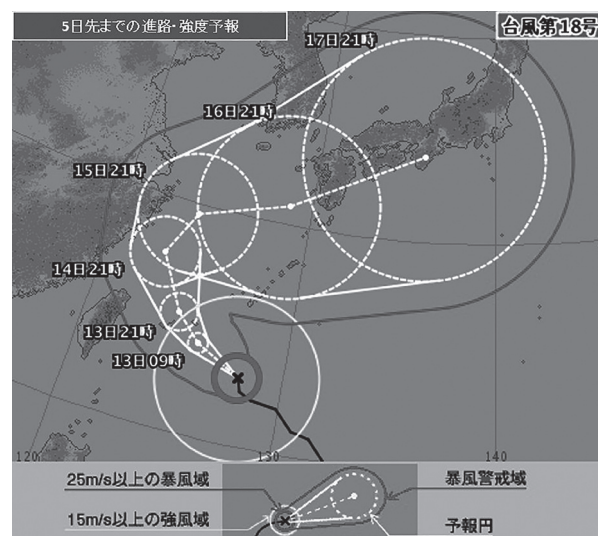
- ※1 必ずしも、表の順番に発令されるとは限りませんのでご注意ください。
- ※2 災害が発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令するものであり、必ず発令されるものではありません。
- ※3 地域の状況に応じて緊急的または重ねて避難を促す場合などに発令されるものであり、必ず発令されるものではありません。
- ※4 自らの判断で避難行動をとる際の参考にするための情報です。

ステップ③ もしもの時に備えておく

- ◆外出すら危険と思われる場合、建物内のより安全と思われる部屋（上層階の部屋など）に移動するなど、緊急的な対応を事前に考えておきましょう。

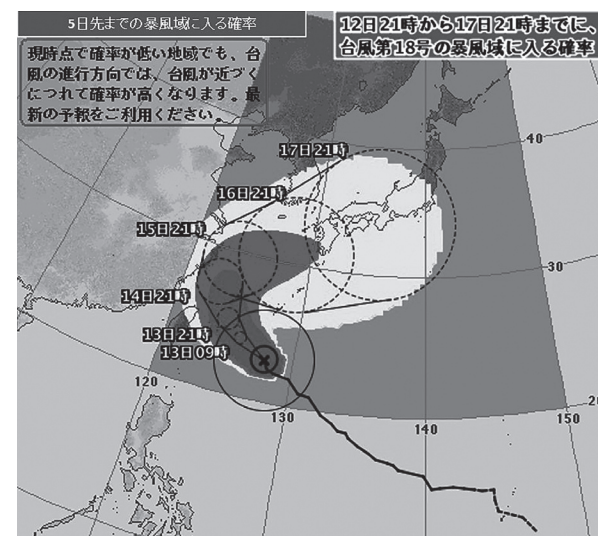
台風情報の例①

台風経路図（実況と5日先までの予報）



台風情報の例②

台風の暴風域に入る確率（分布表示）



気象庁は、土砂災害、浸水害、洪水害の危険度を色分けして地図上に示した「危険度分布」を気象庁のホームページで提供しています。

これらの「危険度分布」により、それぞれの災害が発生する危険度が高まっている地域を簡単に把握できますので、台風の接近が予想されるときや影響を受け始めた場合にも、ぜひ活用してください。



↑気象庁HP
「危険度分布」



↑気象庁HP
「台風情報」